

統合分野	科目名：在宅看護概論	五畿田 芳枝(看護師)	1単 15時間 (2年次前期)	
学習目標	1. 在宅看護の意義と役割を理解する。 2. 地域で生活しながら療養する人々とその家族を理解する			
回数	主題	講師名	主な学習内容	
1	在宅看護の目的	五畿田	1. 在宅看護とは 2. 在宅看護の特性 3. 在宅看護における看護師の役割	
2	在宅看護の対象者		1. 対象者の特徴 2. 在宅看護の対象としての家族 3. 在宅療養者と家族が暮らすコミュニティ	
3	地域包括ケアにおける看護の役割		1. 在宅療養者の家族への支援 2. 地域包括ケアにおける看護師の役割 1) 地域包括ケアシステム 2) 地域包括支援センター 3) 在宅看護の提供方法と看護の役割	
4	在宅看護を支える保険制度と訪問看護		1. 介護保険法に基づく訪問看護制度 2. 健康保険に基づく訪問看護制度 3. 訪問看護ステーション利用の仕組み	
5	ケアマネジメントと居宅サービス計画書（ケアプラン）の理解		1. 介護支援サービスの方法 2. ケアマネジメントの基本 3. 居宅サービス計画書（ケアプラン）の作成	
6			1. 発表	
7	在宅看護と倫理		1. 個人の尊厳の尊重 2. 自己決定権 3. 個人情報の保護	
8	終講試験		筆記試験 45分	
履修上の留意点	1. グループワークでは、各々メンバーが自分の考えを述べること。グループ思考が活発となるように努めること。グループワーク成果物の発表は、グループ思考を分かり易く述べられるように準備すること。 2. 在宅看護の「対象の特徴」理解のために、調べ学習を行う。個人学習に計画的に取り組むこと。 3. 学習形態はその都度指示する。			
1. テキスト 2. 参考書	1. 統合看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院			
評価方法	筆記試験			

統合分野		科目名：在宅看護援助技術		五畿田 芳枝(看護師)	1単 30時間 (2年次前期)		
学習目標		1. 在宅看護を展開するための援助方法と基礎的技術を身に付ける。 2. 生活援助用具とその利用方法を理解する。					
回数	主題	講師名	主な学習内容		授業形態		
1	在宅における日常生活支援 1) 食生活支援	五畿田	1. 在宅の食生活における生活上の課題と支援方法 2. 療養者への食事支援のための社会資源の活用		講義		
2	2) 排泄に関する支援		1. 排尿・排便機能障害と排泄生活における課題 2. 排泄機能障害に応じた生活介護用品の工夫、 適切な補助用具の種類と選択方法、失禁等の予防的対応 (在宅の多様な排泄用具・排尿管理方法・尿道留置カテーテル) (浣腸・摘便等)		講義		
3	3) 清潔と衣生活に関する支援		1. 清潔・衣生活のアセスメント 2. 在宅で実施する清潔・衣生活援助の種類と方法の工夫 (在宅におけるフットケア・スキンケア方法の工夫) 3. 社会資源の活用と訪問・通所の入浴サービス方法		講義		
4	4) 活動と休息に関する支援 5) 住まい・生活環境に関する調整支援		1. 日常活動動作・手段的日常生活維持の必要性 2. 在宅での生活環境に応じたリハビリテーションと専門職との連携 3. 在宅における休息・睡眠のアセスメントと援助 4. 訪問時の住まい・生活環境のとらえ方の工夫 5. 住まい・生活環境の整備、制度利用 (住宅改修・多様な福祉用具)		講義		
5	6) 生活援助の工夫の実際		【校内演習】「事例を基に日常生活における生活環境の工夫をしよう」		演習		
6	在宅における医療管理を必要とする人と看護 1) 褥瘡予防とケア		1. 在宅における褥瘡発生要因の特徴 2. 予防的ケア：基本的ケア方法・多様な褥瘡予防マットの紹介 3. 発生後のケア：在宅用品での洗浄・被覆保護・予防指導 4. 予防ケアや発生後ケアの多職種連携、協働の実際		講義		
7	2) 在宅における排泄管理		1. 尿道留置カテーテル管理と膀胱洗浄 2. 膀胱瘻管理 3. ストーマケア 1) 尿道留置カテーテル留置に起因する問題の予防と対応 2) ストーマの種類と特徴 3) ストーマ用装具の使用方法とケア支援		講義		
8			【校内演習】 1. 膀胱留置カテーテルの管理 2. ストーマケア (在宅用品での洗浄)		実習室		
9	3) 在宅における食生活支援		1. 胃瘻管理と経管栄養法の管理と生活上の工夫 2. 在宅中心静脈栄養法の管理と生活上の工夫		講義		
10			【校内演習】基本的な胃瘻からの経管栄養の実施		実習室		
11	4) 在宅における呼吸管理		1. 在宅酸素療法/非侵襲的陽圧換気療法 (NC/FM/NPPV マスク) の適応と対象の特徴 2. 在宅酸素療法の導入時の支援 3. 日常生活支援・工夫		講義		
12			1. 在宅人工呼吸療法の適応と対象の特徴 2. 人工呼吸器の種類と特徴 3. 在宅人工呼吸療法の導入時の支援 4. 在宅における気切管理・吸引処置・カニューレ交換の家族支援・多職種連携の実際		講義		
13	5) 在宅における薬物療法		1. 様々な服薬管理方法 2. インスリン自己注射中の在宅看護の実際、低血糖症状の緊急時対応 3. 抗がん剤治療管理：中心静脈ポート設置の目的、知識、抜針までの管理		講義		
14	6) 在宅における緩和ケア		1. 対象の全人的苦痛の緩和 1) 対象が抱く全人的苦痛と関わり、家族の喪失と悲嘆 2. 疼痛緩和の管理 1) WHO ラダーに準じた痛みのアセスメントと鎮痛剤選択 2) 鎮痛剤の使用方法の療養者・家族への指導		講義		
15	終講試験		筆記試験、まとめ		試験		
履修上の留意点		1. 在宅における日常生活支援1)～4)では身体機能フィジカルアセスメントを含む 2. 常に持参のテキストは「看護実践の根拠がわかる在宅看護技術」「在宅看護論」 3. 配布資料は全て持参 4. 学習形態はその都度指示					
1. テキスト 2. 参考書		1. 統合分野 在宅看護論 医学書院 1. 看護実践の根拠がわかる在宅看護技術 メジカルフレンド社					
評価方法		1. 筆記試験					

統合分野	科目名： 在宅で療養する対象の看護	高桑 奈美子(看護師) 五畿田 芳枝 (看護師)	1単30時間 (2年次後期)
学習目標	1. 在宅看護を展開するための方法を理解する。 2. 社会資源を活用し、多職種と協働する中での看護の展開を理解する。		
回数	主題	講師名	主な学習内容
1	在宅看護を提供する上での基本的姿勢 ～在宅看護を展開の要点～	五畿田	1. 家庭訪問の意義 2. 訪問に際しての準備 3. 在宅看護展開の要点 1) 対象者の生活と価値観、多様性の尊重すること 2) 生活環境や家族への看護の視点も持つこと 3) 長きに渡る療養生活と医療者との長期的関わりの時間経過 4) 生活を支える法令・支援制度を活用すること
2			
3	在宅看護における情報整理とアセスメント視点	五畿田	(COPD 症例活用) 1. 在宅における情報収集と情報整理のポイント 1) 身体的機能 2) 活動・生活 3) 生活環境 4) 理解・意思・意向・希望・価値 2. 情報収集方法の実際 1) 居宅サービス計画書、サービス利用・提供票 2) 訪問看護指示書 3) 訪問看護計画書、月毎の訪問看護報告書 4) 訪問看護経過記録、看護要約 5) 訪問看護導入時の退院前の訪問内容、担当者会議 6) 初回訪問面接記録 3. 情報整理後の ICF 理念に基づくアセスメント 4 視点 1) 疾患・医療 2) 生活活動 3) 環境 4) 理解・意向
4	対象の課題の明確化の思考過程	五畿田	3. 課題の明確化の思考・判断 1) 問題着眼型・リスク着眼型・強み発見型の思考・判断
5	在宅看護における看護目標・計画・実施と評価の方法	五畿田	1. 看護目標設定・看護計画立案の方法 1) 在宅医療・在宅療養の目的を踏まえ多職種で共有できる在宅療養方針と看護方針の設定
6		五畿田	2) 意思決定主体者の療養者を支える支援 3) 家族・介護者への支援 4) 保健医療福祉職との連携・報告・相談
7	在宅看護における安全性の確保	五畿田	1. 在宅看護に潜むリスクとは 2. 薬物による医療事故防止
8		五畿田	3. 身体損傷の防止 4. 感染リスクと感染症予防対策 5. 災害時の在宅看護
9	在宅看護に関わる法と制度とその活用方法の実際	高桑	1. 訪問看護制度の創設と発展経緯 2. 在宅にかかわる法令・制度と在宅看護への活用方法 1) 介護保険制度の内容と活用 2) 医療保険制度の内容と活用 3) 障がい者総合支援法の内容と活用 4) 難病法の内容と活用 5) 医療介護総合確保推進法・医療法による介護・医療の整備について
10		高桑	3. 介護保険と医療保険による訪問看護サービス内容の実際 4. 訪問看護の制度の実際 1) 訪問看護ステーションに関する規定の実際 2) 訪問看護を利用する対象と訪問看護サービス内容・費用 3) 訪問看護実践の看護評価と記録責任
11	在宅看護における多職種連携とケアマネジメント	高桑	1. 在宅における連携の特徴 1) 在宅看護に関わる連携多職種とチームケア 2) 医師の指示～連携の実際 3) 介護保険に関わる機関との連携 4) 入退院時期における医療機関と訪問看護の連携
12	在宅の病期に応じた看護(在宅看護介入時別特徴)	高桑	1. 在宅療養準備期 2. 在宅療養移行期 3. 初回訪問期 4. 在宅療養定期 5. 急性増悪期 6. 終末期
13	家族への支援	高桑	1. 終末期にある家族の支援 2. 認知症療養者の家族の支援 3. 難病の療養者の家族の支援

14	在宅看護における法的問題	高桑	1. 対象者の権利保障 1) 個人の尊厳 2) 自己決定権 3) 個人情報保護 4) 看護師の守秘義務 5) 情報開示 6) 成年後見 7) 在宅における虐待問題	講義
15	終講試験		筆記試験、まとめ	試験
履修上の留意点		1. 常に持参のテキストは「看護実践の根拠がわかる在宅看護技術」「在宅看護論」 2. 配布資料は全て持参 3. 学習形態はその都度指示		
1. テキスト 2. 参考書		1. 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 1. 看護実践の根拠がわかる在宅看護技術 メジカルフレンド社		
評価方法		1. 筆記試験		

統合分野	科目名：在宅看護論演習	五畿田 芳枝(看護師)	1単30時間 (2年次後期)		
学習目標	1. 在宅における生活支援の方法を理解する。 2. 在宅における医療管理を必要とする人のその看護を理解する。 3. さまざまな事例から、対象に応じた看護を理解する。				
回数	主題	講師名	主な学習内容		
1	事例展開① 情報収集・情報整理	五畿田	【神経変性疾患を抱える療養者の症例に基づき看護展開】 1. 「パーキンソン病/ALS」の症例から基礎情報シートに情報収集 2. 基礎情報シートに基づき ICF モデルの4視点「疾患・治療」「生活活動」「環境」「理解・意向」アセスメント記録用紙に情報整理		
2	事例展開③ アセスメント1回		3. ICF モデルの4視点「疾患・治療」「生活活動」「環境」「理解・意向」のアセスメント及び関連図作成		
3	事例展開④ アセスメント2回		4. 対象の生活上の課題の明確化		
4	事例展開⑤ 関連図・生活上課題		5. 対象の生活上の課題への目標設定		
5	事例展開⑥ 看護計画 目標設定		6. 対象の生活上の課題への看護計画立案		
6	事例展開⑦ 看護計画 計画立案		療養者のお宅訪問 1. 心構え、訪問前準備 2. 服装・身だしなみ 3. 態度・行動 4. 感染予防行動		
7	事例展開⑧ 看護計画 計画立案		1. パーキンソンを抱える療養者のフィジカルアセスメントの実施と評価 ・生活に潜む脱水や誤嚥を想定した状況下での看護実践		
8	訪問時のマナー		1. ALS を抱える療養者への呼吸管理の援助の実際と評価 ・人口呼吸器アラームの予測と回路点検、吸引の看護実践		
9	看護計画に基づき看護の実施・評価①		1. ALS を抱える療養者への栄養・水分管理 ・胃瘻管理と経管栄養実施と滴下調整		
10	看護計画に基づき看護の実施・評価②		1. パーキンソンを抱える療養者へのリハビリテーション		
11	看護計画に基づき看護の実施・評価③		1. パーキンソン病/ALS を抱える療養者が抱える生命維持・生活上の不安や苦悶について考え、関わり方を考えよう		
12	看護計画に基づき看護の実施・評価④		1. パーキンソン病/ALS を抱える療養者の家族の介護への不安や苦悶について考え、関わり方を考えよう		
12	信頼関係形成と意思決定支援の関わり		1. 第6~第12回の演習の振り返り、看護上の工夫点を看護計画に追加・修正		
13	在宅療養者の家族への看護（発表）		看護展開思考のまとめ		
14	看護計画追加・修正				
15	まとめ				
履修上の留意点		1. 神経変性疾患（パーキンソン病/ALS）の病態生理と必要な治療・看護について復習しておくこと。 2. 科目内で提示した学習課題は指定日時を守り取り組むこと 3. 在宅看護の展開を学習する科目のため複数メンバーでのグループ学習形態のため、グループ内討議を活発に行うように心がけること。その他、学習形態はその都度指示する。			
1. テキスト	1. 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院				
2. 参考書	1. 看護実践の根拠がわかる在宅看護技術 メジカルフレンド社				
評価方法	1. 筆記試験				

統合分野 看護の統合と実践	科目名：看護管理	岡地 千佳 (看護師) 宮澤 綾子 (看護師)	1単位 15時間 (3年次前期)		
学習目標	1. 看護管理の目的と機能について理解する。 2. 組織の一員としての看護師の役割や行動を理解する。 3. リーダーシップとメンバーシップを理解し、マネジメントの基礎を理解する。 4. 看護を経営的・経済的側面から考察する。				
回数	主題	講師名	主な学習内容		
1	看護とマネジメント		1. 看護管理学とは 2. マネジメントとは 3. 看護におけるマネジメントとは 4. キャリアマネジメントとは		
2	看護サービスのマネジメント	岡地	1. 看護サービスのマネジメント 2. 組織目的達成のマネジメント 3. 看護サービス提供のしくみづくり 4. 人材のマネジメント 5. 施設・設備環境のマネジメント 6. 物品のマネジメント 7. 情報のマネジメント 8. 組織におけるリスクマネジメント 9. サービスの評価		
3					
4	看護を取り巻く諸制度		1. 看護の定義 2. 看護職 3. 看護実践の領域と場 4. 医療制度		
5	看護ケアのマネジメント		1. 看護ケアのマネジメントと看護職の機能 2. 患者の権利の尊重 3. 安全管理 4. チーム医療 5. 看護業務の実践		
6		宮澤			
7	マネジメントに必要な知識と技術		1. 組織とマネジメント 2. リーダーシップとマネジメント 3. 組織の調整 4. 組織と個人		
8	終講試験		筆記試験 45分		
履修上の留意点		1. 常に持参のテキストは「看護管理」 他は必要時指示 2. 配付資料は全て持参 3. 学習形態はその都度指示			
1) テキスト 2) 参考書	1) 統系看護学講座 看護の統合と実践 [1] 看護管理 医学書院				
評価方法	筆記試験				

統合分野		科目名：医療安全		水島 和江(看護師) 桑原 直裕(感染管理認定看護師) 桑原 小織(感染管理認定看護師)	1単30時間 (2年次後期)		
学習目標		1. 医療安全における安全管理の必要性を理解する。 2. 医療事故の事例から、安全管理の方法を理解する。 3. 院内感染予防対策及び標準予防を理解する。					
回数	主題	講師名	主な学習内容		授業形態		
1	医療安全	水島	1. 医療安全に関する用語の定義 2. ヒューマンエラーと対策 3. 国の医療安全対策 4. 組織としての医療安全対策 5. 医療事故に伴う看護職の法的責任		講義		
2	事故防止の考え方 「診療の補助の事故防止」 「療養上の世話の事故防止」		1. 医療事故と看護業務 【診療の補助の事故防止】 1) 注射業務と事故防止 2) 注射業務に用いる機器での事故防止 3) 輸血業務と事故防止 4) 内服与薬業務と事故防止 5) 経管栄養業務と事故防止 6) チューブ管理と事故防止 【療養上の世話の事故防止】 1) 転倒・転落事故防止 2) 摂食中の窒息・誤嚥事故防止 3) 異食事故防止 4) 入浴中の事故防止		講義		
3	医療安全とコミュニケーション		1) 事故防止のための医療職種間のコミュニケーション 2) 医療事故防止のための患者とのコミュニケーション 3) 事故の未然防止上重要なコミュニケーション		講義		
4	組織的安全管理体制 安全管理システム		1. 組織的な医療安全の考え方 (システム上の問題、システム要員の改善) 2. 組織的な医療安全管理の土台 3. 組織的な医療安全管理体制の概要 4. 事故防止の具体例 (システム改善の例)		講義		
5	安全管理のプロセス		1. 事故の構造 2. 看護事故防止の考え方 (してはならないことはしない)		講義		
6	リスクマネジメント		1. リスク識別、リスク評価、リスク対応、リスク費用算定 識別の4段階 (内服薬、注射・輸血、栄養、チューブ・ライン管理、転倒・転落)		講義		
7	事故予防対策		1. 診療補助の事故防止 2. 療養上の世話の事故防止 3. ImSAFER		講義		
8	医療関連感染対策 感染予防対策①	桑原	1. 院内感染対策 感染管理の成り立ち (感染症の歴史と感染管理の背景) 2. 職業感染への予防策 ①標準予防策 (スタンダードプロトコーション)		講義		
9	感染予防対策②		②感染経路別予防策 (接触感染、飛沫感染、空気感染)		講義		
10	感染予防対策③		③抗がん剤の被ばく ④放射線被ばく ⑤ラテックスアレルギー ⑥血液・体液暴露		講義		
11	感染予防対策④		院内感染対策 デバイス管理		講義		
12	事故防止 (演習) ①	水島	1. 事例検討		演習		
13	事故防止 (演習) ②		1. 事例検討		演習		
14	事故防止 (演習) ③		1. 危険予知トレーニング 90分+45分		演習		
15	終講試験		筆記試験 45分		試験		
履修上の留意点		1. 常にテキストは「医療安全」 1. 配布資料は全て持参 3. 学習形態はその都度指示					
1. テキスト 2. 参考書		1. 系統看護学講座 看護の統合と実践 [2] 医療安全 医学書院					
評価方法		1. 筆記試験					

統合分野	科目名：国際・災害看護	酒井 彰久 (看護師) 窪田 直美 (災害看護専門看護師) 鵜飼 郁江 (看護師) 柏崎市消防署 (救急救命士)	1単30時間 (3年次前後期)
学習目標	1. 看護における国際協力の必要性を理解する。 2. 災害と定義および災害医療の概念を理解する。 3. 災害サイクルにおける保健医療ニーズや活動の場に応じた看護を理解する。		
回数	主題	講師名	主な学習内容
1	国際協力のしくみ	鵜飼	1. 国際看護とは 2. 国際協力のしくみ
2	国際社会の現状と国際看護活動の課題		1. 保険医療分野の開発理念の変遷 2. 世界の健康問題の現状 3. 国際看護活動の支援を必要とする対象 4. 国際看護活動を推進する人と機関 5. 国際看護活動の実際 6. 国際看護活動に必要な能力
3			
4	災害看護とは	酒井 窪田	1. 災害看護の歴史 2. 災害の定義、災害看護の定義 3. 災害の種類、疾病構造 4. 災害時の疾病と関連死 1)クラッシュシンドローム 2)深部静脈血栓症、肺動脈血栓・塞栓症 3)四肢外傷 4)熱傷
5	災害時の被災者および援助者の心理		5. 被災者および援助者の災害時のストレスとこころのケア
6	災害各期における看護活動（超急性期、急性期・亜急性期）		5. 災害サイクルとは 6. 災害サイクルから見た必要な医療・看護 1)超急性期 2)急性期：保健活動の実際 3)亜急性期：心身・生活の安定への支援、健康を守る看護
7	災害各期における看護活動（慢性期・静穏期）		4)慢性期：地域の再建への支援 5)静穏期：減災に向けての体制づくり、看護の資質
8	病院における災害看護の実際		1. 病院における災害への備え、初動体制 2. 災害訓練・トリアージとは 3. 東日本大震災における活動 4. 個人の備え、地域アセスメント、住民との連携
9	災害時の倫理原則と課題		1. 倫理原則 2. 教育 3. 研究 4. 理論
10	災害が健康や生活に与える影響		1. 活動の実際 東日本大震災における活動、中越沖地震における活動
11	被災者の特徴に応じた災害看護		2. 母性・小児・高齢者・精神障害者と看護 3. 被災者の心のケアの実際 4. 地域災害看護
12	災害時に必要な看護技術	消防署	1. 災害の現場の特徴について
13			
14			1. 実技：気道確保、止血、固定・搬送の実技訓練 2. トリアージタグの記載の実際 3. トリアージ・処置・搬送の実習
15	終講試験		筆記試験 45分
履修上の留意点		1. 配布資料は全て持参 2. 学習形態はその都度指示 遠隔授業あり	
1. テキスト 2. 参考書		1. 新体系看護全書 看護の統合と実践③ 国際看護学 メジカルフレンド社 2. 看護学テキスト NICE 災害看護 南江堂	
評価方法		1. 筆記試験 50・50点	

統合分野 看護の統合と実践	科目名：臨床看護技術演習	野知 祥子（看護師） 高梨 亜紀子（看護師）	1単位 30時間 (3年次前期)	
学習目標	1. 知識・技術・態度を統合し、模擬患者に応じた安全・安楽な援助が実施できる。 2. 複数患者の状態・状況を把握し、優先順位を考えた行動計画が立案・実施できる。			
回数	主題	講師名	主な学習内容	
1	看護の統合分野とは	野知 高梨	1. 統合分野の位置づけと本科目概要 2. 看護の仕事とは 3. 複数患者の受け持ち	
2	複数患者の看護計画		1. 受け持ち患者2名の看護計画立案 1) 全体像 2) 看護計画立案（必要な援助の判断・計画）	
3	複数患者受け持ちの行動計画		1. 受け持ち患者2名の1日のスケジュール作成 1) 複数患者の行動計画立案 2) 業務時間の管理 3) 多重課題発生時の優先順位の判断基準	
4	複数患者の看護実践(1)		1. 複数患者受け持ち時の初回巡回時の看護 1) 患者挨拶と状態把握 2) 環境の確認	
5			1. 多重課題とは 2. 多重課題遂行時の危険性 3. 多重課題発生時の対処の事例、対処の原則 4. SBARを用いての報告	
6	多重課題の対応		1. 起きている事実の状況把握と状況判断 2. どのような看護を実践するか行動の具体化 3. 緊急性・優先順位を考えた判断と安全・安楽な対応 4. 看護業務中断時の患者対応 1) 患者・家族への配慮、協力・支援要請、調整力 2) 報告・相談・協力依頼	
7			1. 患者状態の把握 2. 初期対応 3. S B A Rでの報告	
8	複数患者の看護実践(2)		1.ステーション課題についての準備	
9			【臨床看護技術演習】事例患者の状況に応じた看護実践	
10	場や対象の状況判断に基づいた看護実践(1)		演習	
11			演習	
12	場や対象の状況判断に基づいた看護実践(2)		演習	
13			演習	
14	複合技術を必要とする患者の援助		演習	
15	終講試験		試験	
履修上の留意点		1. 課題（その都度提示）は授業に参加するために必要な知識になるので、各自己学習して授業に臨むこと 2. テキストと配布資料は熟読・活用する 3. 授業内容に応じ適宜授業形態を指示する		
1) テキスト 2) 参考書		2) 系統看護学講座 看護の統合と実践1 看護管理 医学書院 2) 系統看護学講座 看護の統合と実践2 医療安全 医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野I 基礎看護学4 臨床看護総論 医学書院 2) 看護の基本的責務 定義・概念/基本法/倫理 日本看護協会出版会		
評価方法		1. 演習参加・G W学習状況・技術試験		